

アフターマーケットの概況

アフターマーケットの規模は8兆7397億円 用品販売が引き続き伸長、部品はやや減少

自動車のアフターマーケットは「ストックマーケット」と言われるように、そのベースとなるのは「保有台数」である。近年の保有台数の動向を見ると、2007～2010年度まで4年連続で減少したが、2011年度以降は一転して増加に転じた。2018年度は前年度比0.3%増の8178万9318台となり、8年連続のプラスで推移している。

この間にアフターマーケットに大きな影響を及ぼした出来事を振り返ると、2008年9月に発生したリーマンショックによる景気の急速な悪化により、新車販売台数が激減し、それに伴って新車時に販売されるカー用品需要が低迷した。

補修市場でも、ユーザーの節約志向の高まりを受け、板金塗装や修理を先送りする傾向が顕著に見られ、タイヤやバッテリーなどの高額商品も、需要の減少と低価格商品へのシフトにより市場規模が縮小した。

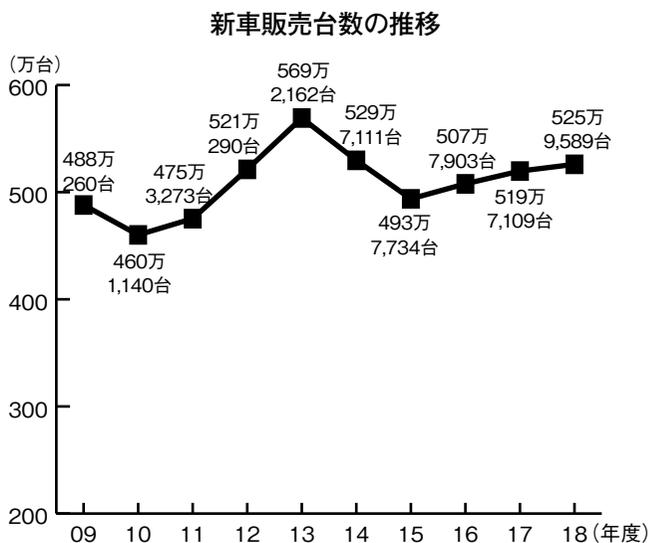
また、2011年度は3月に発生した東日本大震災により、新車生産が停止した影響でカー用品需要が減少した。2012年度は震災の落ち込みからの回復に加え、政府の経済対策効果で新車市場・補修市場とも息を吹き返した。

2013年度はアベノミクスにより景気は緩やかな回復基調となり、消費支出が増加したことと、下期後半に消費税増税前の駆け込み需要が発生し、カー用品・補修部品ともに需要が増加した。

2014年度は増税による駆け込み需要の反動で新車販売が前年度比6.9%減と落ち込んだため、カー用品販売が大きく減少したが、補修部品やオイル・ケミカルが下支えをし、市場全体では微減に留まった。

2015年度は消費支出の落ち込みから、緊急を要しない整備・修理を先送りする傾向が見られ、整備工場と板金塗装工場の売上が減少したほか、暖冬の影響で冬物商品が不振だったことなどにより、前年度比16%減と2年連続のマイナス成長となった。

2016年度は新車販売台数が28%増と3年ぶりに伸びた。特に、登録車が7.5%増と大きく伸びたことで、ディーラーではカーナビゲーションを中心とする新車オプション用品が好調だった。また、新車販売の増加に伴い、高年式車の板金塗装需要が



盛り上がるとともに、乗用車の初回車検と2回目車検の対象台数が前年に比べて増加したことから、これらの入庫の多いディーラーの整備売上が伸びた。

2017年度は新車販売台数が23%増と2年連続で伸びたことでカー用品が好調だった。特にあおり運転事故の報道を受けて「ドライブレコーダー」が急伸。また、タイヤが値上げ前の駆け込み需要と値上げによる単価アップ、さらに寒波による降雪により冬用タイヤが伸びたことで、タイヤを扱う全チャネルがその恩恵を受けた。

2018年度は新車販売台数が12%増と3年連続で伸びたことで、自動車メーカー系の用品販売が好調だった。また、前年に続いて「ドライブレコーダー」の需要が増大、各販売チャネルとも絶好調の売れ行きな上に単価も上昇したことで、トータルで前年よりも100億円を超える大幅伸長となった。

そのほかの品目では、「バッテリー」がアイドリングストップ車用の補修需要が本格化したことで、主要なチャネルで高い伸びを示した。

■新車販売は1.2%増の525万9589台

2018年度の新車販売台数は前年度比1.2%増の525万9589台となり、3年連続で増加した。

車種別では、登録車は333万6590台で増減はなかった。軽自動車は34%増の192万2999台で2年連続で増加した。軽自動車税増税と燃費不正問題の影響からようやく抜け出した。

■中古車販売は1.7%増の695万5363台

2018年度の中古車販売台数は0.9%増の695万5363台となり、4年連続で増加した。車種別では、登録車は0.4%増の384万2947台で4年連続の増加。軽自動車は新車販売が増加に転じたことで下取りが増加し、15%増の311万2416台と2年連続で伸長した。

■平均車齢は乗用・貨物車とも過去最高齢を更新

自動車の「使用期間」は新車代替サイクルの長期化により延びている。

平均車齢を車種別に見ると、「登録乗用車」は前年に比べて0.07年延びて8.60年となり、24年連続で最高齢を更新した。また、「軽乗用車」は0.13年延びて8.50年となり、統計開始以来13年連続で最高齢を更新している。

平均使用年数を見ると、「登録乗用車」は前年に比べて0.33年長期化して

13.24年、「軽乗用車」は0.18年延びて14.73年となり、それぞれ過去最長を更新した。

貨物車の平均車齢は、「登録貨物車」が0.09年延びて11.41年となり、26年連続で最高齢となった。「軽貨物車」も0.16年延びて12.69年となり、最高齢を更新した。平均使用年数は、「登録貨物車」が0.35年長期化して14.72年、「軽貨物車」は0.1年長期化して16.52年となり、それぞれ過去最長を更新した。

※平均車齢・使用年数とも、登録車は2018年3月末、軽自動車は2018年12月末

